

令和4年度事業報告

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

第2次地域福祉推進計画 基本理念（平成26年度～令和4年度）

だれもが住みなれた地域で安心して生きがいをもって生活できるまち

職員行動規範（平成30年4月見直し）

わたしたちは心をあわせ、住民主体の地域福祉を推進するため、一人ひとりが、
こだわりを大切に行動力を持ち、ともに考え頼られる社協職員を目指します。

総務課 地域福祉の推進基盤強化と財政安定化の両立をめざします

重点項目1

広報媒体の見直しによる啓発活動の強化 (さんだ社協だより・ホームページ・SNS など)

相談窓口や寄付先、介護サービス、地域活動・ボランティア活動等の情報をホームページや SNS から得る形が主流を占める現状の中で、以下の見直しを行います。

- ◆ホームページ見直し
(スマートフォン仕様・求める情報に届く構成など)
- ◆SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) の強化
 - ・Facebook に加え、若年層が活用する Instagram 導入
 - ・SNS 社協つうしんの発行 など
- ◆さんだ社協だより発行回数の変更
(偶数月 8 ページ奇数月 4 ページ⇒奇数月×8 ページ)

広報媒体の見直しによる啓発活動の強化

事業費		ホームページ見直し	さんだ社協だより	執行額
		2,243,000 円	5,246,000 円	7,321,953 円
財 源	社協会費	2,243,000 円	2,908,000 円	5,006,452 円
	善意銀行		2,338,000 円	2,315,501 円

人材定着・育成プログラムの充実

目の前の人・団体・組織の困りごとを引き出し、課題解決に向けた方策を考え、内外の必要な人材を巻き込み、創り出す力が求められる中、その期待に応えられるよう研修プログラムを実施します。費用：438 千円 (財政安定化積立金)

- ◆総合相談体制研修 (後述 法人内における
「市域総合相談支援体制」の構築に向けて参照)
- ◆連携きっかけづくり研修 (部署交流)・
課題～分析研修 (システム事例検討)

重点項目2

(1) 成果と課題 ※○：成果、△課題 (以下同様)

- ホームページのリニューアル：「複雑」「情報にたどり着きにくい」状態からカテゴリーを整理し、欲しい情報に届きやすい構成としました。
- 社協だよりの紙面充実：今年度より年 6 回の発行に切り替えましたが、8 面の紙面を特集・地域等に振り分け、身近な活動や住民の声を掲載し、共感の得られる紙面づくりに取り組みました。

※「全国社協広報紙コンクール 2022」に出展。奨励賞を受賞

- SNS を使った情報発信：これまでの Facebook に加え、Instagram を開設しました。新たな年代層や他業種、他分野とのつながりが増大しました。

(2) 次年度に向けて

- SNS をさらに充実：即時的な Facebook、Instagram を更新、また当会のネットワークを利用し、情報提供の輪を広げる取り組みを進めます。
- 情報提供への研究：広報紙、SNS、出張ふくし教室を連携させた方法を整理、研究します。

(1) 成果と課題

- 地域福祉推進計画 (以下、計画という) 策定プロセスにおける OJT：計画策定にあたり、多様な立場の「声」をもとに、住民と協働し、自立生活を支える社協職員としての専門性について、策定作業、研修を通じて共有を図りました。
- 総合相談支援体制研修の実施：計画において重要視した総合相談支援体制にむけ、社協内の他部署を理解するとともに、内部連携の重要性を再認識する研修を令和 5 年 2 月に実施しました。

(2) 次年度に向けて

- OJT による研修の継続：計画の推進において、住民の声を聴きながら地域づくりに関わるプロセスを積み重ねることで、地域福祉への理解を深めます。

地域福祉の推進業務への注力（効率化）と 労務管理が両立する電子システム導入

重点項目3

急激な高齢化、困りごとの重層化など、その方策検討・実施を地域住民の皆さまや関係機関・行政と担う社協職員の役割・責任は拡大傾向にあります。業務に注力し、過労やストレスを防ぎ、効率化と視覚化が実現できる労務・給与・人事管理の電子化を図ります（働き方改革の一環）。

財源は、国関連補助金（IT 導入補助金）申請を行い財政負担軽減に努めます。

費用：3,461 千円

内訳：IT 導入補助金 2,308 千円 財政安定化積立金 1,153 千円

（１）成果と課題

○労務管理システムの導入：これまで手作業にて実施していた、出退勤・給与・人事の業務をシステム化することで、3つの業務を一括管理することができるシステムを令和5年3月に導入、試行運用しました。

△システムの有効的な利用：ハード面の導入は終了したものの、試行期間において不具合が生じています。不具合の理由を的確に把握し、修正して高い業務効率性を達成します。

（２）次年度に向けて

□マニュアルの作成：特に出退勤、給与計算について職員にわかりやすい業務マニュアルを作成します。

□システムの本格運用：試行運用の結果を踏まえ、出退勤・給与の連動運用を早急に実施します。また、人事関係のデータ整備をすすめます。

第2次財政計画の作成

今年度は第3次地域福祉推進計画策定年度（前述）にあたり、地域福祉の推進にかかる方向性を地域住民の皆さまと形作る一年となります。その状況から第1次財政計画（平成29年度～令和3年度）を延長し、今年度、推進計画の内容と連動した安定した財政運営・組織のあり方などを取りまとめ、第2次財政計画を策定します。

●地域福祉財源（社協会費・善意銀行・共同募金）のあり方研究

●ファンドレイジング（国・県・財団・企業などあらゆる分野への働きかけなど財源確保の方策）研究

（１）成果と課題

○補助・委託事業における事業費不足の解消：受託金額・補助金額を事業費が超過している1事業において、翌年度より予算措置がなされることになりました。また、受託金額が事業費を超過した1事業については受託を終了し、これらの影響により翌年度の基金取り崩し額を減額しています。

△計画の未策定：財政への影響を与える要素について洗い出しを行い検討しましたが、特に法人運営にかかる財源の確保の検討において、計画の策定までには至りませんでした。

（２）次年度に向けて

□収入に関する検討：介護保険事業等について、年度ごとの個別要素が大きいことを踏まえ、収入見込みの再検討を行います。また、地域福祉財源についても事業とのバランスを含めて検討を行います。

柔軟な事業運営ができる組織基盤への取り組み

1. 事業運営と組織の基盤づくり

◆法人運営事業にかかる会議の開催

正副会長会：13回 理事会：8回

評議員会：3回 評議員選任・解任委員会：3回

◆事業会計監査の実施

令和3年度：5月26日(木) 13:30～15:30

令和4年度上半期：11月29日(火) 9:30～12:00

3. 職員研修への取り組み

◆社協新任職員研修(採用時研修)

内容 社会福祉協議会が目指すもの、正規職員に求められること、職員行動規範、社協業務について

参加者 3名 講師 事務局長、課長・係長など

◆管理職研修

内容 管理職としての資質、心構えについて

講師 大澤洋一会長 上田博明常務理事

◆ハラスメント研修

内容 「ハラスメント防止について学ぼう」

講師 三谷社会保険労務士事務所 代表 三谷文夫氏

◆総合相談体制研修(兼 連携きかけづくり研修 全2回)

内容 ミニ講義「総合相談が求められる理由・社協の役割」など
グループワークなど

参加者 嘱託以上の全職員 68名

◆オンライン研修や動画を活用した研修の取り組み

安全運転研修、人権研修については YouTube 動画視聴による研修方法を取り入れ実施しました。

2. 役員等研修会等の実施

日時：令和4年8月24日(水) 13:30～15:30

場所：三田市総合福祉保健センター

参加者：理事12名 評議員19名 策定委員6名 職員17名 実習生2名
オリエンテーション

三田市社会福祉協議会・第3次地域福祉推進計画の策定に向けて

三田市社会福祉協議会 事務局長 山口 隆司

実践報告 介護者の立場で、「あきらめてきたこと」、「あきらめなかったこと」

報告者 男性介護者の会「ぼちぼち野郎」代表 北村吉次さん

専門職の立場で、認知症の方の「あきらめない」を支えるために

報告者 三田市地域包括支援センター

認知症地域支援推進員 寺坂梨沙

グループワーク

① 認知症になったら「あきらめない」と仕方ないと思うこと

② 認知症になっても「本当はこうありたい」と思うこと

③「あきらめない」と仕方ないを「本当はこうありたい」にかえていける「一歩目」として、
どんなことが大切だと思いますか



広報媒体の見直しによる啓発活動の強化

広報活動のコンセプト、①困った時には社協に相談(困っている人につながる社協の広報ツールを充実)、そして②暮らしやすいまちにはあなたの力が必要(地域の情報を魅力的に!さまざまな活動への参加スタイルを提案) 多様なツールで、さまざまな対象に向けた情報を発信しました。

4. "good(ぐっ)身近な福祉の情報お届け便 さんだ社協だより

発行回数を奇数月に変更し、地域での取り組みや企業・事業所の地域貢献活動など、より三田の福祉を感じとれる情報発信と、社協そのものを伝える「身近さ」にこだわった紙面づくりに取り組みました。

発行月:4月・5月・7月・9月
・11月・1月・3月

発行部数: 47,000部 (3月号)

発行方法:全戸ポスティング配布

5. ホームページのリニューアル

情報をわかりやすくシンプルなデザインに一新し、スマートフォンでも見やすく対応できるようにしました。

視聴回数:7,335回

(令和5年3月1日~3月31日)

デバイス種別視聴割合



6. フェイスブック

社会福祉協議会の日々の取り組みをタイムリーに、写真や動画とともに、発信しました。

投稿:221件

(前年度件数 235件)

リーチ件数:46,459回

(前年度件数39,866回)



7. LINE

公式アカウント

ユーザー数の多い SNS として多世代、他分野にわたり、幅広く情報を届けるためのツールとして、活用しました。

友だち登録者:246名

(前年度 193 名)



8. Instagram (10月1日開設)

特に市内事業所、活動団体等のフォロワーに対して、DM による情報を随時発信していくために、新たなフォロワーの拡大に向けて取り組みました。



SANDA_SHAKYO

投稿:61件

フォロワー件数:158件

フォロー数:162件

リーチ件数:5,254回

※投稿を見てもらった数字

9. 出張ふくし教室の開催

社協の多様な職種、事業、人材を活用した講座メニューを設け、福祉を身近に学べる機会として職員が地域に出向きました。講座内容を職員が提案、また一緒に考えプログラムを作り上げていけるところも特徴のひとつです。社協会費など「地域福祉財源」への理解や協力を得るための機会にもなっています。

全25回 延べ579名

(前年度年間15回 延べ334名)



総合福祉保健センター内でユニバーサルデザイン見学ツアーを行いました(三輪小学校4年生)

10. 三田市社会福祉大会の開催

日時 令和5年1月28日(土)13:00~16:30

場所 三田市総合文化ホール 郷の音ホール 大ホール

参加者 436 名

◆表彰式典

福祉功労者 31 名、福祉功労団体 10 団体、福祉事業功労者 16 名
中央共同募金会会長感謝受賞団体:老人クラブ連合会
厚生労働大臣表彰受賞団体(ボランティア功労):愛善会

◆講演「これからの地域福祉と地域福祉推進計画」

講師 第3次地域福祉推進計画策定委員会委員長
関西学院大学人間福祉学部 教授 藤井 博志 氏

◆実践発表:「私たち流の居場所づくり・地域づくり」

- ①いこいの家さんだ こども・地域しょくどう
- ②ゆりのき生活サポート倶楽部

◆赤い羽根共同募金募金百貨店プロジェクト調印式(兵庫ブレーパーズ)

◆さっちゃんマーケット



新型コロナウイルス感染症の影響により感染予防に努め3年ぶりの開催し、長年地域福祉活動に取り組まれている方々への感謝の意を表しました。また、これからの地域福祉について「自分らしく安心して暮らす共生の地域づくり」を目指して令和5年度から取り組んでいく第3次地域福祉推進計画の講演と、実践発表を行いました。

地域福祉財源(社協会費・善意銀行・共同募金)の安定確保に向けて

民間として進める三田の地域福祉活動の貴重な財源として、その財源の活用事業・活動と財源確保に向けた啓発活動が一体的に進めていけるよう取り組みました。

11. 社協会費

三田の地域福祉推進において、社協が身近な相談先として、住民の参加を得ながら活動を進めていけるよう、社協を伝える広報・啓発活動等に注力しながら、会費への賛同を募りました。一般会費は、三田市区・自治会連合会及び、区・自治会より協力を得ながら推進しました。協力件数は社協に対する理解や期待感のあらわれとも言えます。賛助会費の減少が見られるなか、個人や法人等に向けた、財源面へのサポートの呼びかけを、今後もさらに法人全体の取り組みとして進めていきます。

種類	令和4年度	
	協力件数	実績額
一般会費 1世帯200円	区・自治会 170件 (前年度年間173件)	4,915,400円 (前年度年間4,906,900円)
賛助会費 (個人対象) 1口1,000円	170件 (前年度年間244件)	249,800円 (前年度年間364,800円)
特別会員 (法人等対象) 1口5,000円	119件 (前年度年間131件)	832,000円 (前年度年間913,000円)
合計		5,997,200円 (前年度年間6,184,700円)

※共同募金については最終ページに掲載

12. 善意銀行事業

善意銀行とは、みなさまから善意の寄付(金銭や物品)をお預かりし、必要とされている方々や福祉事業等へ払い出しを行う「善意の橋渡し」のしくみです。

企業・団体等からの寄付においては贈呈式を積極的にとり行い、寄付の周知に努めるとともに、寄付者の意向に添う寄付の活用について調整を図りました。

【金銭】

◆一般預託 122件 3,632,409円 (前年度105件 2,745,058円)

※内9件が10万円を超える寄付

◆さっちゃんのまごころお福分けネットワーク

81件 754,738円 (前年度108件 724,358円)

◆払出 善意銀行財源の事業

(ア)高齢者支援関連事業(在宅高齢者介護者家族の会への助成)

(イ)障害者・セルフヘルプグループ支援関連事業

(ウ)修学旅行お小遣い一部助成事業

(エ)母子・父子支援関連事業(母子・父子関連団体への助成)

(オ)福祉啓発関連事業(社協だより印刷)

(カ)火事見舞い金

【物品】

◆預託 33件

◆払出 市内福祉施設・団体等(介護用品、マスク等その他20件)

13. 三田市総合福祉保健センター指定管理運営事業

第4期5年間の2年目をむかえ、来館者サービスの向上、経費の節減に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症対策に努めました。

◆指定管理者モニタリング評価[令和3年度年間]

実施日 令和4年5月19日(木)13:30~15:00

評価 B(適正)

◆総合福祉保健センターの利用状況

コロナ禍による、利用制限がおおむね解除されており、前年度に比べ貸館件数等は増加しました。利用料収入は市ワクチン接種担当部署の貸館継続利用により増額となりました。

【貸館件数】4,860件(前年度実績 4,411件)

【利用人数】73,186名(前年度実績 61,057名)

【利用料】5,965,100円(前年度実績 5,607,880円)

◆ギャラリー(展示等)の活用

19件、延べ199日間、来館者数5,805名

(前年度:15件、延べ154日間、来館者数4,142名)

※センター利用人数にギャラリー利用者数含む

◆総合福祉保健センターユニバーサル デザインツアー(出張ふくし教室) ▶

◆光熱費の高騰

原油価格高騰の影響を受け、光熱費が当初の予算を大幅に上回り、収支赤字の事態となっており、市担当課へ必要な措置について申し入れを行いました。



14. 福祉バス助成事業

市内の福祉保健団体などが、団体の育成や地域内の交流のきっかけづくり(市内の通いの場など)実施時に借り上げるバス等の費用の一部を助成することを通して、地域福祉の向上を支援しました。今年度になり、外出自粛等が緩和されたことをうけ、申請件数・助成額は増加しました。

実施件数 32件 ※申請44件 内、2件が感染予防のため中止

10件が旅行支援利用により取り下げ

助成額 1,412,500円

利用対象 小地域つどい・サロン、当事者団体・セルフヘルプグループ

地域活動団体、ボランティアグループなど

(前年度実績)

実施件数 13件(申請20件の内7件感染予防のため中止)

助成額 581,100円

15. 喫茶室運営事業(喫茶業務・デイ昼食調理業務)

5月7日から、感染予防対策をとりながら、通常時間での営業を再開しました。価格高騰に対して弁当の値上げや、販売促進として、復刻メニューや、季節限定メニュー、ワンコインデザート等の販売で、売り上げの改善に取り組みました。ポポロランチでは、コロナ禍前の販売個数回復を目指します。

〔喫茶室〕

営業日時:月曜~金曜10:00~16:00 実日数243(弁当販売日含む)

売上高:16,934,119円(前年度実績13,891,403円)

※デイサービス調理売上高含む

〔デイサービス昼食調理〕

営業日時:月曜~土曜(祝祭日含む) 9:00~12:30

16. 第3次三田市社会福祉協議会地域福祉推進計画の策定(令和5年度～令和9年度)

地域福祉の推進に向けた今後の社協事業及び地域福祉活動の推進指針として、関西学院大学人間福祉学部 藤井 博志教授を委員長に、ケア部会、相談支援部会、地域部会を構成し、全 18 名の策定委員と社協役職員、また地域活動団体など様々な方々から意見を取り入れながら、多様化、複雑化する福祉ニーズに対して、多様な主体との協働による、とぎれることのない支援の実現に向けた方策や仕組みづくりについて検討し、策定しました。

委員長 : 藤井博志

順不同・敬称略

ケア部会 : (部会長) 中田初美・北村吉次・岡田敦子・宮城明子・上田博明

相談支援部会 : (部会長) 前川嘉彦・三戸静香・松下修・金田州平・安田理香・福本良忠

地域部会 : (部会長) 西田孝夫・行羅博文・畑颯汰・梅澤豊和・河崎俊文・吉本勉

	日付	時間	内容	出席者
第1回	4/22 (金)	14:00 ~ 16:30	第3次地域福祉推進計画策定の概要説明 第2次地域福祉推進計画評価について	策定委員 15名 役職員 19名
第2回	5/31 (火)	14:00 ~ 16:30	ヒアリング・アンケート等の状況報告 地域福祉推進における現在の課題協議①	策定委員 14名 役職員 20名
第3回	6/24 (金)	14:00 ~ 16:30	課題協議②	策定委員 12名 役職員 21名
第4回	7/29 (金)	14:00 ~ 16:30	—コロナ感染拡大により中止—	—
第5回	8/26 (金)	14:00 ~ 16:30	課題協議③・協議のまとめ 地域福祉推進に向けた方向性の確認 計画骨子(案)について	策定委員 17名 役職員 15名
第6回	9/27 (火)	14:00 ~ 16:30	計画骨子(案)について 取組内容の検討	策定委員 14名 役職員 18名
第7回	10/25 (火)	14:00 ~ 16:30	取組内容(案)について提案・協議	策定委員 16名 役職員 22名
第8回	11/25 (金)	14:00 ~ 16:30	取組内容(案)、総合相談支援体制、計画 冊子章立て(案)について	策定委員 12名 役職員 21名
第9回	12/23 (金)	14:00 ~ 16:30	取組内容について、計画冊子、福祉 目標(案)について	策定委員 12名 役職員 22名
第10回	1/27 (金)	14:00 ~ 16:30	福祉目標(案)について、計画冊子(案) について	策定委員 13名 役職員 21名

場所: 総合福祉保健センター

第3次地域福祉推進計画 福祉目標

自分らしく安心して暮らす共生の地域づくり



地域福祉課 人と人のつながりを大切にした様々な協力による地域づくりを推進します

身近な地域でつながり続ける活動を推進します

重点項目1

新型コロナウイルス感染症の拡大は、様々な地域活動の休止や内容変更、高齢者等の身体的機能の低下、生活困窮や社会的孤立を生み出す可能性を高めます。それらを防ぐため、日常の見守りや小単位で無理のない交流など、より身近な地域で誰もが安心して参加・活動でき、気軽につながり合える、地域に合った取り組みを住民の皆さまとともに考え、展開を図るための支援を行います

- ◆区・自治会域などを中心とした身近な「見守りネットワーク」を住民の皆さまと一緒に考えます
- ◆孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業

運営費用

生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員の配置		予算	執行額
事業費		57,531,000 円	54,300,481 円
財源	補助金	32,000,000 円	
	受託金	12,000,000 円	
	法人運営事業繰入金	13,531,000 円	

(1) 成果と課題

○つどい・サロン活動助成の見直し：孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業（助成金事業）において、住民相互の見守りあいや緩やかなつながりづくりを推進するため、地域のつどい場の助成対象に見守り訪問や電話等に係る経費を加えました。

△新型コロナウイルス感染症の拡大による地域活動への影響：地域活動が実施しづらい状況が前年度同様に続きました。生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員が働きかけを行い、地域でのつながりを維持する（社会的孤立を予防する）活動の促進を図りましたが、活動の自粛や縮小などによりコロナ禍前には戻っていません。

(2) 次年度に向けて

□地域福祉力の向上：社会的孤立に陥りやすい状況は続いているため、地域でのつながりを維持する活動を促進するとともに、地域の福祉力の向上（住民主体の協議の場や地域活動の創出、新たな担い手の発掘等）を図ります。

□重層的支援体制事業：相談支援の窓口を担う専門職から、複雑化・複合化したニーズに対応できる包括的支援体制の構築が求められています。既存の相談支援の取り組みを活かしながら、三田市とともに「重層的支援体制整備事業」の実施に向けて取り組みます。

子ども・保護者の孤立を防ぐ取り組みを進めます

各子育て支援事業、さっちゃんのまごころお福分けネットワークなどこれまでの事業から寄せられた、ひとり親世帯などの声（ニーズ）を受け止め、子どもや保護者が、より地域で安心な暮らしができることを目指した取り組みの検討を進めるとともに、子ども食堂をはじめとする支援団体間の連携を促進します。

◆子どもの社会的孤立を防ぐことを目的とした子ども食堂などの支援機関がネットワークを活かしさらなる活動の促進を図る場「さんだ子どもまんなかネット（子どもの孤立を防ぐ連絡会）」の開催支援
令和5年2月15日（水） あこう子ども食堂へ市内子ども食堂世話役、市すくすく子育て課とともに視察研修を実施。

◆ひとり親世帯のつながりによる安心な暮らし、学習不安の解決を目指した取り組みを実施します。（ひとり親世帯の気軽な居場所づくり「ぺあちる」の開催、学習支援の取り組み「にこっとタイム」）

事業費用

ひとり親世帯交流会の開催各種助成金事業など		予算	執行額
事業費		1,039,000 円	1,204,000 円
財源	善意銀行（寄付金・積立金）	1,039,000 円	

社会福祉法人等による福祉（介護）の仕事を広く伝える取り組みを進めます

社会福祉法人等では培ってきた知識や経験を活用して支援を必要とされる方や地域に向けて公益的な活動に取り組んできました。一方で福祉・介護人材不足は社会問題となっており、各法人等だけでは対応できる状態ではありません。福祉（介護）の仕事の魅力を広く伝える取り組みが展開されるように社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットさんだ）等による法人間の連携・協働を進めます。

◆三田市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットさんだ）
運営支援（事務局担当）

（1）成果と課題

○住民ニーズに対応した事業の実施：子育て支援事業、特にさっちゃんのまごころお福分けネットワーク事業から聞こえる声に応えた事業として、ひとり親支援事業「ぺあちる」、学習支援事業「にこっとタイム」をシニア・ユースひろばで実施しました。また、事業を「さんだ愛育班」（子育て支援ボランティアグループ）「NPO 法人みかづき」（学習支援事業者）と協働実施したことで、事業内容が充実しました。

△シニア・ユースひろばの協働拠点としての役割：上記事業を複数団体と協働実施したことで、シニア・ユースひろばに様々な活動の協働拠点としての役割を果たす可能性が見いだせました。今後もニーズに応じた事業展開をしていきます。

（2）次年度に向けて

□事業の継続実施：安心して参加できる場づくりを意識し、少人数でも活動を必要とする子育て世帯支援のため、「ぺあちる」「にこっとタイム」を継続します。

□子育て支援をテーマとした地域づくり：今後も個別支援を通じて聞こえる声を取りこぼさず、様々な人、団体と協働する事業展開を進めます。また、引き続き市内の子ども食堂をはじめとする活動団体間のネットワークを強化するため、連絡会（さんだ子どもまんなかネット）を開催します。

（1）成果と課題

○「みちかいご」への参画：有志の社会福祉法人、NPO 法人により昨年度立ち上げた「みちかいご」（法人間連携により福祉（介護）の仕事や魅力を伝え、人材育成に繋げる取り組み）に参画し、11月に「介護・福祉フェスタ」を開催しました。

△ほっとかへんネットさんだの活動停滞：新型コロナウイルス感染症の影響で、ほっとかへんネットさんだの活動は役員会1回、全体会1回の開催のみで、地域啓発等の活動は行えませんでした。

（2）次年度に向けて

□福祉（介護）人材の育成：引き続き「みちかいご」に参画し、福祉・介護の仕事について広く発信し、共に福祉の仕事をする仲間を増やす取り組みに繋がります。また、福祉・介護の啓発のイベントを協働して開催します。併せてほっとかへんネットさんだの事務局として、人材育成等の全市の課題に関する法人間連携に向け、情報交換の場を積極的に設定します。

地域福祉係 地域福祉支援室

地域でのつながり・見守り・支え合いを推進するため、生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員(7名)を市内6か所の地域福祉支援室に配置し、つながりを維持する(孤立を防ぐ)地域福祉活動の推進に取り組みました。

1 地域活動者向け研修会・交流会の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年開催できていなかった地域活動者向け研修会や地域福祉フォーラムを開催しました。

◆『地域活動に役立つ LINE 公式アカウント活用講座』

(三田市、LINE(株)協力) 参加者 25 名

◆『地域福祉フォーラム』これからの地域福祉と地域福祉推進計画～私たち流の居場所づくり・地域づくり～ 参加者 436 名

2 多様な主体の地域福祉への参画促進

企業・事業所等の社会貢献活動を取りまとめた地域に紹介する「さんだ地域福祉パートナーズバンク」を開始しました。冊子の発行と共に社協のホームページに掲載しました。

◆掲載企業・事業所 11 か所(かもめベーカリー、㈱大東
㈱深谷工務店、兵庫ブルーサンダーズ、花咲、松尾亭
美容室プロフェッショナル、Print コーディネーター、
トヨタカローラ神戸㈱三田店、社会福祉法人三翠会、
ネットトヨタ神戸㈱新三田店)

※R5.3 現在

3 生活困窮世帯支援活動助成事業

三田市内で生活困窮者世帯の支援に取り組まれる、子ども・地域食堂、学習支援活動等の地域福祉活動に対して助成し、安定的な組織運営と共に活動の活発化を図りました。

◆助成団体 8 団体

◆助成総額 292,498 円

- ・情報発信やコミュニケーション機会、安否確認など防災にも取り入れることができればと思います。(研修会参加者)
- ・実践発表に大変刺激を受けました。素晴らしい!(参加者)



全国身体障害者野球大会や募金百貨店プロジェクトにも参加しており、少しでも地域に貢献できる活動を行っていきたく考えています。

(兵庫ブルーサンダーズ)

兵庫ブルーサンダーズ

(e-mail) bluesanders.w@gmail.com



Instagram

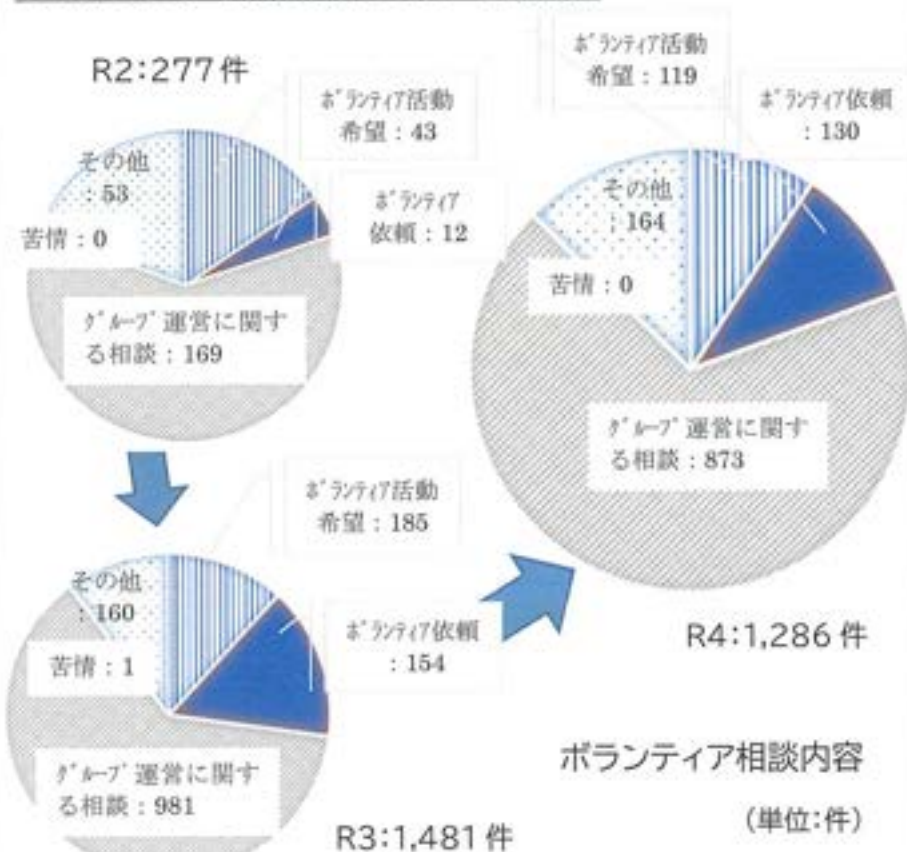
- ・先生の協力もあり、学校と地域の連携が上手く進み、対象となる子どもが参加してくれました。(活動者)
- ・日々、子どもたちの成長と変化に驚きと喜びを感じて活動しています。(活動者)



地域福祉係 ボランティア活動センター

新型コロナウイルス感染症の影響による自粛が少しずつ緩和される中で、活動も従来と同様の取り組みが再開されつつありますが、そのまま従来通りの活動に取り組むだけではなく、コロナ禍を含め、近年大きく変化してきた、一人ひとりのライフスタイルや交流の仕方など、社会環境の変化に合わせた活動の転換や、社会課題の解決に寄与するための活動など、次のステージに向けた取り組みを図るための相談が増加しています。

1 ボランティア活動センターの運営



2 ボランティア活動の振興

◆『第20回ボランティアまつり』の開催

<日 時> 9月24日(土) 11:00~16:00 <場 所> 総合福祉保健センター

<テーマ> “こんな時こそ笑顔と元気を!”

<内 容> ・講演会(mottoひょうご 栗木剛氏講演会)

・活動発表(4グループ) ・体験コーナー(3グループ)

・ボランティアグループ活動紹介等パネル展示

・ボランティアグループ紹介 ・物品販売(障害者支援施設6事業所)

<参加者> 480名

過去2年間自粛していた「まつり」を開催し、ボランティア活動に直接触れる体験コーナーを実施したり、またボランティア連絡会が30周年という節目にあたるため記念式典を同時開催しました。



点訳ボランティア体験



記念講演

地域福祉係 障害者生活支援センター

障害者総合支援法による地域生活支援事業・相談支援事業の指定を受け、障害のある方やその家族からの相談に応じ、自立に向けて必要な情報の提供や福祉サービス調整・援助を行いました。支援にあたっては行政や基幹相談支援センター、サービス提供機関と連携し、包括的な支援を展開しました。

新型コロナウイルスの感染症は続っていますが、社会参加や余暇活動への相談件数が戻ってきました。しかしながら、日々の不安や、生活スタイルの変化に伴う相談も入り、相談者に寄り添った相談支援を行いました。

なお、平成15年から三田市より受託してきた当事業は、令和4年度をもって受託を終了し、三田市に終了報告を行いました。

支援内容（重複あり）

支援内容	R4年度	R3年度
福祉サービスの利用等に関する支援	442	240
障害や病状の理解に関する支援	149	120
健康・医療に関する支援	203	170
不安の解消・情緒安定に関する支援	421	325
保育・教育に関する支援	21	21
家族関係・人間関係に関する支援	181	275
家計・経済に関する支援	292	231
生活技術に関する支援	132	121
就労に関する支援	135	108
社会参加・余暇活動に関する支援	104	47
権利擁護に関する支援	13	33
その他【当事者支援に関すること（虐待含む）、自立生活に関する情報提供等】	265	172
合 計	2,358	1,863

- ▲ 社会参加・余暇活動の相談が増えてきている一方で、仕事や将来に対する不安の相談も増加しています。

障害別相談件数（延べ件数）

障害種別	R4年度	R3年度
身体障害	190	141
重症心身障害	1	2
知的障害	458	346
精神障害	501	413
発達障害	80	183
高次脳機能障害	5	1
難病	0	0
その他	51	65
合計	1,286	1,151

※その他：関係機関による障害全般の相談等など



◀卓球交流会
他の施設・団体の人や
ボランティアとの交流
を楽しみました

多世代交流係

社協が行う子育て支援事業(ファミリーサポートセンター事業、養育支援訪問事業、こんにちは赤ちゃん事業、母子・父子福祉活動事業、児童・青少年福祉活動事業)を一元化し、情報の共有を行い利用者が必要とする支援を途切れることなく提供することに努めました。

1 さんだファミリーサポートセンター事業(市受託事業)

コロナ禍で落ち込んでいた活動件数は送迎を中心に回復傾向にあり、また障害児支援の活動も増加しています。会員数は、依頼会員で子どもが小学校を卒業し、対象となる子どもがいない方が毎年退会し、減少傾向にあります。その中で協力会員へ種別変更する方もわずかですがあり、協力会員は増加傾向にあります。

会員数:依頼 751 名、協力350 名、両方 101 名 計 1,202 名

活動件数:2,113 件 ※令和 5 年 3 月末現在

2 養育支援訪問事業(市受託事業)

周産期や母親の傷病などにより、身体的・精神的に育児や家事が困難となっている家庭に対し、「夢サポーター」が訪問して料理・掃除・洗濯などの家事や沐浴等育児の支援を行いました。また、市関係機関からの紹介、ファミリーサポートセンターとの連携を行いました。

利用件数:64 件(実利用者10名)

(前年度同時期:77 件)

にこっとタイム ▶



3 こんにちは赤ちゃん事業(市受託事業)

新生児の家庭を訪問し、子育てに必要な情報の提供に併せて誕生記念のタイムカプセルを作成しプレゼントしました。また、専門的な相談を要するケースは、市関係機関、保健師との連携に努めました。なお、新型コロナウイルス感染症への不安から訪問を望まない家庭に対しては、市保健師が電話により対応したことから、訪問数が昨年度より減少しています。

訪問対象:概ね生後4か月児まで ※転入者を含む1歳未満児まで訪問可能
令和4年度訪問件数:79 件 (前年度同時期:106 件)

4 シニア・ユースひろば

夏休みに実施した～小学生夏休み企画 ふらっとチャレンジ～では、小学生が17名、子どもの見守りをする高校生や大学生、社会人などのボランティアの参加は延べ18名となりました。若い世代のボランティアとも新たなつながりができており、フロアボランティアとしても参加していただいています。

また、子どもまんなかネットやさっちゃんのまごころお福分けネットワークを実施する中で、経済的な困窮以外に、“不登校や自宅に学習環境がない”、“子どもたちが楽しく安心して“学べる場”の居場所が欲しい”などの声があがっています。学べる場の居場所づくりを進める第一段階として、学習ボランティア活動者などの様々な人の見守りの中で学び、将来の選択肢を広げられるよう“子ども自身の意欲”をはぐくむ機会として「にこっとタイム」を実施しました。

さっちゃんのまごころお福分けネットワーク

新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮世帯の急増や急激な物価高騰を受けて、今年度も先行きの見えない状況であり、ひとり親世帯、就学援助世帯等に対して、食品提供等を通じた生活の支援、社会的に孤立させない(つながり続ける)ネットワークをつくることで、困ったときには相談できる関係を持ち続けられることを目的に実施しました。

また、さっちゃんのまごころお福分けネットワークの実施時期以外にいただいた食料品等は、「ささやかな贈り物」として食品提供を通じた生活の支援を行いました。

	実施期間	配布品	配布数
ささやかな贈り物①	6月18日～26日	防災備蓄用アルファ化米	40 世帯(子ども47名)
さっちゃんのまごころお福分けネットワーク第7弾	8月4日～10日	パックご飯、フルーツ入りシリアル、カップ麺、乾物、ウレタンマスク、絵本、手作り巾着、文房具	216 世帯(子ども 386 名)
ささやかな贈り物②	10月14日～18日	白米、パックご飯、提供食品等	16世帯(子ども30名)
さっちゃんのまごころお福分けネットワーク第8弾	12月16日～25日	白米、お菓子詰め合わせ、フランスパン、備蓄品	251 世帯(子ども446名) 子ども食堂6か所(315名)
ささやかな贈り物③	1月24日～30日	白米、冷凍パン、備蓄品、お菓子、ぬいぐるみ等	50 世帯(子ども50名)
さっちゃんのまごころお福分けネットワーク第9弾	3月17日～3月23日	白米、備蓄品、レトルト食品、書籍	220 世帯(子ども 401 名)
新入学応援ランドセルお届け	3月7日～12日	ランドセル	38世帯(子ども44名)

協力いただいた事業所・企業等:アイリスオーヤマ株式会社三田工場、有馬富士手作り作品展、医療法人井殿歯科医院、医療法人社団いまだ内科クリニック、ウッディ・カルチャー地区ふれあい活動推進協議会、医療法人社団 紀洋会、協和樹脂工業株式会社、株式会社神戸物産、坂本軌道工業株式会社、ささえあいふじ、さんだおもちゃライブラリー、さんだ子ども発達支援センター かるがも園、三田学園学生ボランティア、三田市危機管理課、三田わくわく村、生活協同組合コープこうべ三田西店、ソフト99 コーポレーション三田工場、株式会社 ダイナム、手作り玩具の会「こあら」、西川株式会社 ネーブルハウス三田事業所、フラワータウン駅ビル調剤薬局、有限会社 ふりーだむ、プロジェクト Ohana、ボルカノ株式会社三田工場、前橋内科循環器科医院、三住管財株式会社、三菱電機株式会社 三田製作所、三菱マテリアル株式会社 三田工場、特定非営利活動法人ミラクルウィッシュ、武庫小校区まちづくり連絡協議会、有限会社メディスコ有限会社やすたか薬局、NPO 法人わかくさ のぞみ、個人 (敬称略)



総合相談支援センター

生きづらさを受け止め、ともに解決の糸口をつくり出すことのできる体制を整えます

権利擁護・成年後見支援センター運営事業

権利擁護支援体制の確立

重点項目1

権利擁護視点における本人支援への共通認識が図られ、多様な職種、機関等によるチーム支援がより機能していくことをめざし、支援者への後方支援を含めより柔軟な支援が行えるための地域連携ネットワークの構築を目指し取り組みます。

- ◆広報・啓発活動の促進（市民啓発講座、出張ふくし教室の開催）
- ◆チーム支援の強化
（権利擁護実務者会議の開催、支援者支援の推進）
- ◆支援者向け専門相談機能の充実
- ◆生活困窮者自立支援事業（生活安心サポートセンターの運営）

運営費用

		予算	執行状況
事業費		12,694,000 円	11,703,911 円
財源	受託金	12,694,000 円	11,703,911 円

（１）成果と課題

○生活困窮、権利擁護に関する個別課題への対応支援：市委託事業、新型コロナウイルス特例貸付や日常生活自立支援事業など関連事業を一体的に担い、様々な「生きづらさ」に対する相談支援を総合的に行いました。司法書士による電話相談・出張相談の拡充など、多機関との連携を図りつつ、解決に向けた支援を行いました。

○住民の声を活かした新規事業：市内の社会資源の分析を行う中で、おとなのひきこもり家族のつどい「らくに」の開催、住民の立場から権利擁護支援に関わる人材（権利擁護サポーター）の育成をスタートしました。

△課題解決の困難さ：地域住民からの相談内容が複雑化・複合化している中、課題解決が困難な事例が増加しています。

（２）次年度に向けて

□「総合相談支援体制（まると受け止め支える体制づくり）」の構築
：当会第3次地域福祉推進計画基本方針3に位置づけた総合相談支援体制を法人内で具体化します。市地域福祉計画でも相談体制は取り上げられていることから、市との連携もすすめます

□関係機関とのネットワークの強化：前述の複雑化・複合化した社会課題に対応すべく、関係機関のネットワーク（民間福祉・団体／分野別）構築や参加をすすめます。

I 新型コロナウイルス特例貸付 受付期間：令和2年3月25日～令和4年9月30日

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて減収した世帯に対する「新型コロナウイルス特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）」の受付及び相談支援に取り組みました。（受付期間は令和4年9月30日で終了。）また、令和5年1月から一部の償還が開始され、償還に向けた相談や償還免除に関する相談や手続きを支援しました。

◆相談・申請・決定件数

月次	緊急小口資金			総合支援資金				
	相談	申請	決定	相談	申請	決定	延長	再貸付
R4.9月末 累計	838	633	636	516	485	462	206	277

◆貸付決定状況（兵庫県社会福祉協議会より）

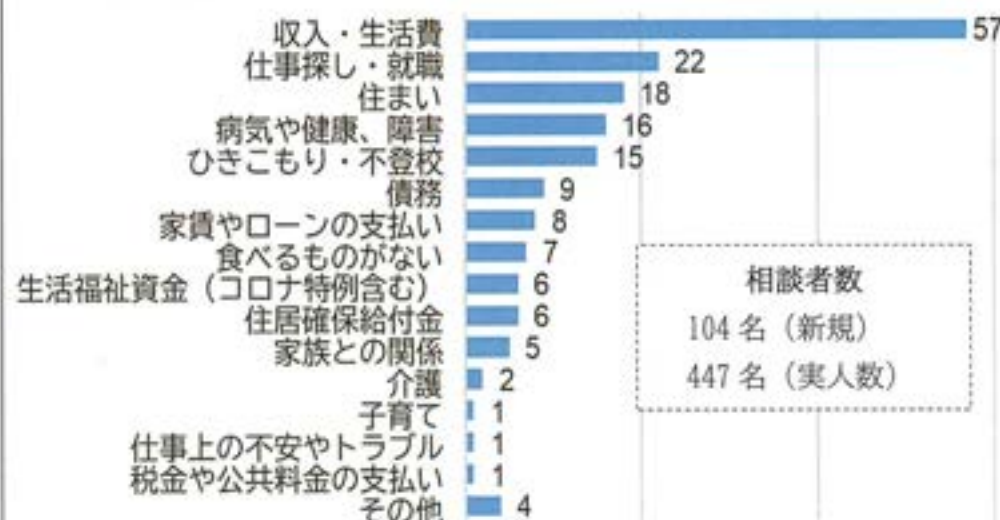
資金種別	決定件数	決定金額
緊急小口資金 ※労働金庫、日本郵便業務委託受付件数含む	650 件	125,720,000 円
総合支援資金 ※延長・再貸付件数含む	950 件	533,600,000 円
合計	1,600 件	659,320,000 円

II 三田市生活安心サポートセンターの運営

昨年度まで権利擁護・成年後見支援センターとして一体的に位置づけられていた生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業及び住居確保給付支給などを「生活安心サポートセンター」として受託し運営しました。



1 新規相談の内容



2 おとなのひきこもり 家族のつどい「らくに」

孤立しがちなひきこもり当事者の家族の方を対象に、思いの共有や社会とつながるきっかけづくりを目的としたつどいの場を開催しました。

◆開催日時 令和5年2月27日（月）

◆参加者 8名



・同じ悩みを持っている人とお話や連絡先を交換できて良かったです。（参加者より）

3 住居確保給付金

離職、廃業又はやむを得ない休業等により経済的に困窮し、住宅を喪失又は喪失するおそれのある方で、就労能力及び就労意欲のある方を対象に、住居確保給付金を支給し、就労機会の確保等に向けた支援を行いました。

○新規申請：4件 ○再支給申請：7件

4 自立相談支援事業 自立支援計画(プラン)の策定

住居確保給付金活用に伴う求職活動の支援をはじめ、目標達成に向けたプランを一緒に作成しました。支援調整会議ではプランを決定するとともに、進捗を共有しました。

支援調整会議 毎月1回定例開催
○プラン作成件数 40件…うち初回プラン 11件
○評価実施件数 49件…うち終結 20件

Ⅲ 三田市権利擁護・成年後見支援センターの運営

判断能力の低下や、人・地域との関わりが難しいなどの生きづらさを抱える人が「自分らしく安心して生活ができる権利」を護ることができるよう、関係機関と連携しながら支援しました。

1 新規相談の内容



2 権利擁護支援者の育成

生きづらさを抱える方々に寄り添い、伴走者としてサポートできる方の養成を目的とした権利擁護サポーター養成講座を全4回にわたって開催しました。

- ◆開催日…1月30日(月)、2月10日(金)
2月17日(金)、24日(金)
- ◆参加者…延べ62名
- ◆登録者…15名



3 広報・啓発

◇権利擁護啓発研修会

○家裁(家庭裁判所)のヒトに聞いてみよう!

～成年後見制度のキホン～

講師 神戸家庭裁判所 主任書記官 宮本 怜氏

参加者 28名

◇ひきこもり講演会(当事者家族向け)

○ひきこもり当事者との対話から学ぶ

～生き方よりも、生きたい気持ちを支える実践～

講師 特定非営利活動法人 ウィークタイ

代表理事 泉 翔氏

参加者 35名

◇ひきこもり講演会(一般市民向け)

○ひきこもりへのかかわり

～心の支援を通して伝えたいこと～

講師 カウンセリング&コンサルティング

オフィス フロンティア代表 小島 俊久 氏

参加者 30名

4 権利擁護実務者会議

相談のプラットフォームとして、支援困難ケースについて、多様な支援機関(医療、司法、保健、福祉、行政、その他あらゆる分野)が解決のための相談・協議を行い、権利擁護支援に向けた協働・実践へと繋げる場として開催しました。広報について見直しを行い、参加者が増加しました(昨年度 132名)

開催日時:第4木曜日 14時~16時 *6月・10月・2月(18時~20時)

参加機関:公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部、NPO法人あすなろ、特定非営利活動法人WELnet さんだ
居宅介護支援事業所咲楽、市内地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、障害者生活支援センター、市暮らしの安心課
市子ども家庭課、市地域福祉課、市いきいき高齢者支援課、市障害福祉課、市介護保険課、市協働推進課、市福祉共生室、地域福祉支援室
三木市社会福祉協議会(研修受入)市生活安心サポートセンター、権利擁護・成年後見支援センター(延べ163名)

* 三木市社会福祉協議会から依頼を受け、成年後見支援センターが実施する成年後見関係者交流会で実践発表(3月8日)



5 権利擁護専門相談会

将来に向けた成年後見制度利用の検討や債務整理など法律的な権利擁護に対する助言を求めるものが多く、支援者である専門職からの相談にも応じました。

開催日数:10日

※第1木曜日:弁護士、社会福祉士等/第3木曜日:司法書士、社会福祉士等
相談者数:16名(内訳:高齢者:5名 障害者:5名 その他:6名)

6 日常生活自立支援事業

判断能力が不十分な人々の自己決定を支援し自立した地域生活を送ることができるよう支援を行いました。

◆利用者数…19名(認知症高齢者…9名 知的障害者…4名
精神障害者…6名) ※うち、新規6名、解約2名

◆訪問回数…延べ337回

7 生活福祉資金貸付事業

経済的自立、生活意欲の向上などを図り、地域社会での安定した生活を目指すことを目的に資金の貸付及び必要な相談支援を実施しました。

◆新規貸付件数(コロナ特例貸付を除く)

緊急小口資金	1件	100,000円
福祉資金	2件	395,000円
教育支援資金	4件	10,860,000円
合計	7件	11,355,000円

8 修学旅行お小遣い助成事業

低所得世帯等家庭の児童・生徒に対し修学旅行経費の一部を助成するとともに、生活支援のきっかけづくりを行いました。

助成額 475,000円
◆助成内容 小学生3,000円
中学生5,000円
◆申請数 小学生50名
中学生65名

その他、民間福祉・団体ネットワークの促進支援の一環として、さんだ多文化ふくふくネットワーク(外国にルーツのある方のサポートを行われている国際交流協会との協働)の立ち上げを行いました。

また、後述の地域包括支援センターでは、若年性認知症を抱えた方への支援ネットワークにも、積極的に参画しました。

三田市地域包括支援センター・ウッディ地域包括支援センター

重点項目2

連携・協働の場の推進

制度・サービスでは対応が難しい、世帯の中での複合的な問題に対して、地域住民、専門職、関係機関、また多様な社会資源とのつながりによって、課題の解決が図られるよう、そのためのシステムづくりに取り組みます。

- ◆地域ケア会議の開催
- ◆新たな民間事業等とのネットワーク構築

運営費用

		予算	執行状況
事業費		60,025,000 円	59,706,230 円
財源	受託金	60,025,000 円	59,706,230 円

(1) 成果と課題

○連携・協働の場の推進：生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員等と連携し、家族、近隣で見守り支援体制を構築する課題解決型地域ケア会議（三田包括2回、ウッディ4回）、専門職からの生活に対する助言、課題分析を行う自立支援型地域ケア会議（事前研修+7回開催）を行いました。（△）課題としては、抽出された課題を検討する場づくりが挙げられます。

(2) 次年度に向けて

- 多様な地域ケア会議の開催：既存の会議の充実とともに圏域版ケア会議開催に向けた取り組みを行います。
- 高齢者の権利擁護に向けた取り組み：高齢者虐待発生時支援体制の充実に向け、スーパーバイズ機能の充実、虐待対応マニュアル（緊急時対応等）の検討・改訂をすすめます。

認知症施策総合推進事業への取り組み強化

重点項目3

認知症の予防と、早期診断・早期対応に向けた支援体制の定着、また地域における啓発、見守り活動等の支援体制を推進します。

- ◆医療、介護、生活支援の有機的なネットワークの構築（もの忘れ相談、認知症初期集中支援事業など）
- ◆認知症の方やそのご家族を支える活動の創出
- ◆オンラインの活用による「脳の健康度」測定（セルフチェックによる認知症予防啓発）

運営費用

		予算	執行状況
事業費		11,556,008 円	9,835,864 円
財源	受託金	11,556,008 円	9,835,864 円

(1) 成果と課題

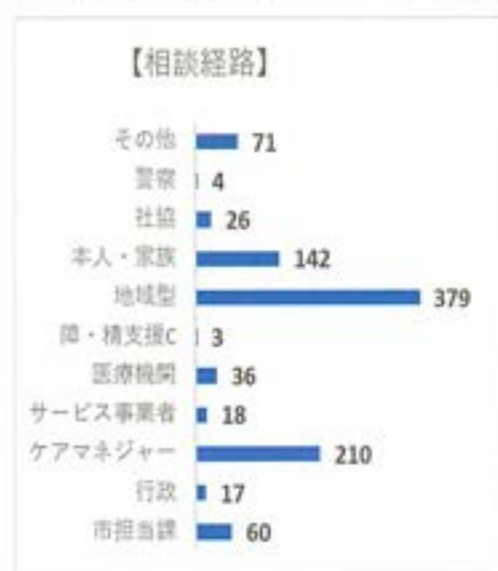
- タッチで脳の健康チェックの開催：認知機能をタブレットなどで測定できるソフトを活用し、脳の健康チェックの機会・啓発を行いました（参加者 延べ115名）
- 認知症に関する啓発機会の充実：市内3か所の認知症啓発ポスター展示、新規取り組みの家族向け認知症サポーター養成講座（キャラバン・メイトと共同企画）を行いました。また、情報発信の拡充として「オレンジライン」を始動させました。
- △社会資源の少なさ：若年性認知症の方への支援において顕著です。

(2) 次年度に向けて

- 条例制定に伴う業務推進：令和4年12月に制定された「認知症の人と共に生き支え合うまちづくり条例」理念実現に向けた取り組みを市・地域包括支援センター認知症地域支援推進員と行います。

1. 三田市地域包括支援センター基幹型相談件数

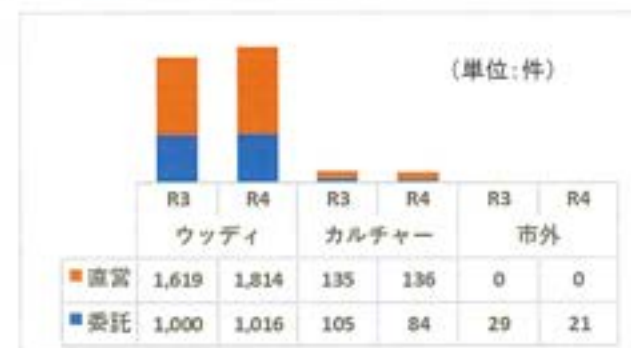
高齢者や家族はもとより、ケアマネジャー、地域型包括支援センター・高齢者支援センター、医療機関などの関係機関等に対する相談業務を行いました。



2. 介護予防ケアマネジメント業務(三田市地域包括支援センター・ウッディ地域包括支援センター)

介護保険における要支援1・2と認定された方へ、本人や家族の意向および生活環境などを踏まえた介護予防サービス計画(ケアプラン)を作成し、計画に基づいたサービス提供が届けられるよう関係機関との調整を図りました。

【給付管理件数】 委託事業所: 三田市地域包括支援センター43 事業所 / ウッディ地域包括支援センター40 事業所 ※市外: 住所地特例利用者



3. 地域包括・高齢者支援センター(地域型)相談件数

※社協受託:三田・三輪南地域/ウッディ・カルチャー地域

高齢者や家族の相談を受け止め、訪問活動等による実態把握を行い、必要なサービスや地域とのつながりづくり支援を行うとともに、得られた地域課題を各種ネットワークへ届けました。

	三田・三輪南	フラワー	藍	三輪北・小野・高平	広野・本庄	ウッディ・カルチャー
相談実件数	1,183	1,363	453	190	339	1,624
相談延べ件数	2,397	1,602	680	244	490	2,840

(相談対象者の状況)

一般高齢者	432	66	45	3	5	294
虚弱	423	585	274	118	188	693
要支援	727	532	246	64	147	1,005
要介護	815	419	115	59	150	848
合計	2,397	1,602	680	244	490	2,840

(相談内容)

介護保険制度	1,540	1,090	485	195	308	2,132
保健福祉サービス	324	52	9	6	44	206
医療・疾患・投薬	550	169	74	71	139	564
生活全般	1,020	298	117	83	219	1,026
介護	449	39	8	14	95	280
認知症	775	309	45	21	108	440
安否確認	143	24	6	1	35	41
インフォーマルサービス	64	75	29	4	33	72
その他	222	60	27	7	56	211
虐待	77	3	5	1	11	31
成年後見	28	17	0	0	11	29
消費者被害	4	3	4	0	0	10
その他権利擁護	72	4	9	3	7	65
合計	5,268	2,143	818	406	1,066	5,107

相談形態		
形態	三田・三輪南	ウッディ・カルチャー
電話	1,124	1,518
来訪	504	785
訪問	652	481
その他	117	56
合計	2,397	2,840

世帯状況		
状況	三田・三輪南	ウッディ・カルチャー
ひとり暮らし	1,037	727
高齢者世帯	621	1,126
同居家族あり	643	871
その他	96	116
合計	2,397	2,840



↑ ウッディ包括では、ウッディタウン市民センターの協力を得て、いきいき100歳体操の体験会を実施しました(延べ301人参加)

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

地域の多様な社会資源を活用した支援を通して、「自分らしく安心した生活」につながる関係者(相談援助職・サービス事業者など)向けプログラムを実施しました。

◇総合相談研修会

内 容	講師	参加者
①医療ニーズの視点のアセスメントのポイント ～医療視点、ニーズの導き方、医療との連携のポイント導き出すための基本のキ～	平磯あしんすこやかセンター 管理者 鶴本 和香氏	38 名
②「認知症臨床の現場から ～認知症の特徴と、心理職に求められる役割～」	医療法人社団 滞標会 しおかぜメモリークリニック 理事長 南 辰也氏	42 名

内 容	講師	参加者
③在宅医療について ～在宅医療の理解が広がる世の中を目指して～	医療法人 健仁会 アイルさんだクリニック 院長 美田 良保氏	40 名

◇権利擁護研修(三田市権利擁護・成年後見支援センターと共催)

内 容	講師	参加者
意思決定支援のあり方について考える	認定社会福祉士 田島 啓子 氏	29 名

5. 自立支援型地域ケア会議の推進

ケアマネジャーが作成するケアプランを対象に、多角的な専門分野からの助言を得ながら、必要なサービスの導入や支援方法を検討する場を通して、望む暮らしの実現につながるケアマネジメントを支援しました。

開催数:7 回(14 事例)

参加者:延べ 100 名



メンバー:
ケアマネジャー 歯科衛生士
薬剤師 栄養士 理学療法士
地域包括・高齢者支援センター

また、年度当初に専門職向け研修(参加者 33 名)を実施し、昨年度の自立支援型地域ケア会議の開催状況を伝える場を持ち、自立支援型地域ケア会議から見てきた地域課題についても共有しました。

講師 社会福祉法人 三翠会 統括施設長 前川 嘉彦 氏

6. 高齢者虐待対応

【三田市高齢者虐待防止マニュアルによる虐待認定件数】※()は前年度実績

	前年度末	新規認定	終結	認定継続
虐待対応件数(実人数)	1	5(0)	3	3

○虐待コア会議9件(新規・終結) ○個別ケース検討会5件

○権利擁護法律相談(包括分):電話相談7件/カンファレンス等の参加5件

※公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート兵庫支部へ依頼

7. 認知症地域支援・ケア向上推進事業

認知症の方への効果的な支援を行うために、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図るための取り組みとして、認知症疾患医療センター兵庫中央病院と連携して、若年性認知症多職種連携会を開催しました。

今後も定期開催し、若年性認知症への支援体制づくりを目指します。

○ 若年性認知症多職種連携会:2回開催(参加者22名)

内容:若年性認知症の方の支援体制構築

8. 認知症初期集中支援事業

目的: 認知症高齢者やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築しました。また、認知症地域支援推進員(1名 相談件数:476件)を配置し、医療・介護等の連携、地域における支援体制の構築による認知症ケアの向上を図りました。

内容:
専門職による
スクリーニング会議
(=対象者の選定)
チーム員会議
(=支援計画の検討)
を実施

【スクリーニング会議実施状況】

会議 実施回数	相談経路			合計	新規支援 対象者
	もの忘れ 相談	圏域支援 センター	ケアマネ ジャー		
12回	67名	8名	0名	75名	10名

【認知症初期集中支援対象者の推移】

前年度継続	新規対象者数	終了者数	継続件数
4名	10名	10名	4名

10. 認知症サポーター養成講座

※ () は前年度実績

	学校	サロン	ふれあい協	民協	行政	区・自治会	企業	病院・薬局	事業所 サレレス	個人 (事務局主催)	合計
団体数	24	7	0	1	1	0	7	0	1	3	44(22)
受講者数	743	95	0	44	29	0	12	0	10	74	1,007(382)

◇受講者累計(平成21年度～): 533団体 12,294名

12. 認知症介護者交流会

目的: 認知症介護者の悩みや情報交換・交流の場づくり
対象者: 認知症の介護家族の方
日時: 毎月第2木曜日 / 開催数: 全12回
参加者: 延べ56名



9. ものわすれ相談(認知症専門医による専門相談)

対象者 認知症の不安・おそれのある方、その家族
日時 毎月第1・3木曜日 14:00～16:00
相談件数 65件(前年度66件)

- ① 兵庫中央病院もの忘れ外来等の受診へつなぐ………26件
- ② 担当医師の助言によりかかりつけ医での内服調整………4件
- ③ 精神科の病院を紹介し受診………1件
- ④ 介護保険申請し介護保険サービスを導入………4件
- ⑤ 支援センターと情報共有し地域のつどい場を紹介………15件
- ⑥ その他(運動やつどい場への参加継続等)………11件
- ⑦ 認知症初期集中支援チームへつなぐ………4件

<相談結果>

終了	要経過観察	要精査	要医療	再相談
14	13	22	13	3

11. タッチで脳の健康チェック

MCI(軽度認知障害)の早期発見・早期対応と地域住民の健康増進を促すことを目的に実施しました。

対象者: 三田市在住・在勤で40歳以上の方
日時: 奇数月の第4火曜日 9:30～12:00
〔5月24日、7月26日、9月27日、
11月22日、1月24日〕
参加者: 延べ43名(定員各8名)

認知症啓発展示や健康相談会等、地域でのイベントにあわせて「出張タッチで脳の健康チェック」を実施しました。

開催数: 5回
参加者: 延べ72名



13. 介護予防普及啓発事業

○ フレイル予防教室 実施講座数(124 講座 延べ1,708 名受講) 前年度 82 講座 1,112 名
身近な場所で、介護予防の知識や実践方法が学べるよう、地域の様々な団体・活動・集まりに保健・医療等専門職が出向き、介護予防(フレイル対策)講座を実施しました。

A 必須 ※講座は選択方式。1 団体 3 講座まで申し込み可能

① 食べて元気にフレイル予防	栄養士
② かくれ塩食について知ろう	栄養士
③ カルシウム UP の食べ合わせとは	栄養士
④ オーラルフレイルの予防について (1. オーラルフレイルとは 2. お口の手入れ 3. 口腔体操)	歯科衛生士 (重点指導テーマを1つ選択)

B 選択

⑤ 楽しくエクササイズをしよう	運動指導員
⑥ 音楽で昔を振り返ってみよう	音楽療法士
⑦ くすりの管理と飲み忘れについて	薬剤師
⑧ セラピストによる運動プログラム 1. 気分をリフレッシュ！肩こり・腰痛体操 2. 転ばぬ先の転倒予防 3. 身体と頭の活性化！脳トレ体操	理学療法士または作業療法士 (※3つのコースから1つ選択)

C 1つのみ選択可

⑨ ヨガでリラックス体操	ヨガインストラクター
⑩ アロマの力で認知機能アップ 1. しおりコース (100円) * 2. 石鹸コース (300円) * 3. スプレーコース (500円) * 4. 座学コース (無 料) *	アロマセラピスト (※4つのコースから1つ選択)
⑪ 回想法で元気になろう ～思い出喋れば、心うきうき！脳もいきいき！～	回想法グループ



☞ 左:「⑤楽しくエクササイズをしよう」

☞ 右:「①食べて元気にフレイル予防」

○ 医師から学ぶ講演会

内 容	講師	参加者
かかりつけ医がつなぐ安心の輪	澤外科 院長 粟根 雅章氏	66 名
最期への準備と介護(フレイル)予防の大切な関係 ～人生会議について～		53 名



14. 地域介護予防活動支援事業

生活支援コーディネーター兼地域福祉支援員と連携し、身近な通いの場や在宅における健康維持・安心できる通いの場の活動再開に向けた情報交換の場

「ウィズコロナ時代の つどいあい★わかちあい★お元気交流会」を開催しました(参加者49名/スタッフ等16名)



☞ コロナ対策を行いながらのグループワークでは、活発な意見交換が行われました

介護サービスセンター あなたの笑顔にとことん ～「こう生きたい」に寄り添い、暮らしを支えます～

* 実施事業：訪問看護サービス事業（医療保険・介護保険）、高齢者ホームヘルプサービス事業（訪問介護）、障害者ホームヘルプサービス事業（居宅介護、行動援護、同行援護、移動支援）、高齢者デイサービス事業（通所介護）、身体障害者デイサービス事業（生活介護）、居宅介護支援事業（居宅介護支援）

重点項目1

チームとしての機能強化を図ります

- ◆同法人内で地域支援・相談支援を行う強みを活かせる法人内連携を強化します。
- ◆市内社会福祉法人等と連携し福祉（介護）の仕事魅力啓発・人材育成に取り組みます。

重点項目2

安定した運営体制の確保

- ◆国施策、他事業所状況を常に情報収集し、仕組み、環境改善
- ◆「社協ならではのサービス」像を伝達する媒体作成（リーフレット・ホームページ・SNS等）

重点項目3

社協のケア部門が担う役割のあり方研究

利用者・関係者からの声（期待）をより良い支援につなげられるよう、制度での取り組みとともに制度外で求められる「社協が担うべきケア」を明確にし、実践に向けた研究を行います。

(1) 成果と課題

- 安定的なサービス提供の実施：デイサービスの一時休業以外は、途切れることなくサービス提供を行いました。
- 計画策定における連携：ケア部会の運営を行い、ケアを通じた地域との関わり方を職員間で共有しました。
- △収益の減少（予定 20,033 千円⇒実績 14,930 千円）：新型コロナウイルス感染症の影響によるデイサービスの一時休業、訪問系介護サービスの訪問控えの増加により、前年度に比べて収益が減額しました。

(2) 次年度に向けて

- 総合相談支援の窓口機能の発揮：介護サービスを提供する中で、利用者の困り事を広く把握し、解決に繋がります。

法人繰入金額(単位:円)	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
サービス名	経営計画	決算 (当期資金収支差額相当額)	経営計画	決算 (当期資金収支差額相当額)	経営計画(予算)	決算 (当期資金収支差額相当額)
訪問看護	6,537,000	5,831,106	1,220,000	1,518,019	1,000,000	△814,642
高齢者ホームヘルプ	3,316,000	8,673,109	5,849,000	10,019,945	6,067,000	9,799,504
障害者ホームヘルプ	5,936,000	5,780,381	12,629,000	12,770,100	11,554,000	11,535,677
高齢者デイサービス	5,047,000	2,716,023	1,663,000	△2,238,866	1,251,000	△3,731,519
居宅介護支援	1,738,000	589,368	1,239,000	779,353	161,000	△1,858,476
合 計	22,574,000	23,589,987	22,600,000	22,848,551	20,033,000	14,930,544

訪問看護サービス事業

在宅療養をしている小児から高齢者まで、様々な疾患に対応し、利用者本位で安心・安全な在宅療養が継続できるよう総合的に支援しました。研修機会を増やし、スタッフの知識と技術、ステーションの質の向上に努めています。また、Fine-Link に加入し、地域包括支援センターや医療機関を訪問して訪問看護を知ってもらう機会を設けるなど、訪問看護の利点の広報に努めました。

1. さまざまな方への支援受け入れ

小児から高齢者まで、「さまざまな病気や状況においても対応できること」を大切にして支援しています。

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	277	268	294	278	273	261	259	262	259	248	275	305	3,259
医療保険	139	148	137	132	147	138	125	137	110	122	135	175	1,645

2. 24時間緊急連絡支援体制

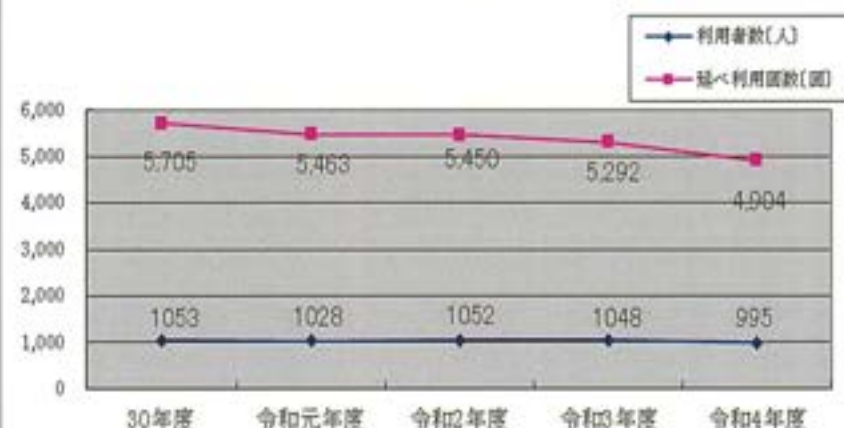
実利用者数: 44名 延べ利用件数: 61件

3. 多くの医療機関との連携

三田市内外を問わず、多くの医療機関と連携し安全・安心を提供しています。

医療機関数 38 医師数 58名

訪問看護利用者数と延べ利用回数



4. 職員の総合的な知識と技術の向上

ステーションの質と個人の知識・技術の向上を目指して研修への取組を強化しています。「認知症」「精神科看護」の専門チームを立ち上げ専門性を高めています。

- ◆ 定例会(月1回)
- ◆ 研修 (スタッフ各自が月に1度の研修を受けています)
 - 「訪問看護におけるリスクマネジメント」
 - 「BCP 策定のために知っておきたいこと」
 - 「虐待防止のための研修」
 - 「4DAS 認知症機能訓練システム」
 - 「認知症の症状と精神難病との関係」

高齢者デイサービス事業(通所介護・介護予防通所介護相当事業)

介護や支援が必要な方へ適切な介護サービスを提供し、レクリエーションや運動等を通じた心身の機能低下予防及び利用者間の交流により充実した生活を送っていただくことを目指しました。

利用者、家族の理解と協力を得ながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を進めました。しかし、複数の利用者及び職員への感染を確認したため、その対応として、8月18日～27日の10日間休業しました。なお、再開にあたっては、デイルーム、浴室等の環境を整備し、併せて消毒方法等についても見直す等、感染対策を強化しました。

収支状況では厳しい運営となっており、業務改善による人件費・事業費の見直しを進めるとともに、ケアマネジャーへの空き情報提供を実施する等、利用者増に向けても取り組みました。職員の資質向上に向け、虐待対応研修や緊急時対応・感染管理研修を実施しました。

1. 活動状況

活動の制限がある中でしたが、身体を動かすレクリエーションや毎月の製作活動には季節感を盛り込んだ作品づくりを提供し、利用者の笑顔を引き出す支援につなげました。

また、夏まつりや敬老会、年忘れ会、作品展といった事業も実施しました。



▲ 年忘れ会



▲ 作品展

2. ボランティアとの連携

令和2年8月よりボランティアの受入れは中止していますが、オンラインでのボランティアグループわらべ(読み聞かせや歌等)との交流の機会を設けました。

今後、各ボランティアの皆さまのご理解を得ながら、感染拡大の予防策を十分に講じることで安心して活動できる場の提供とともに利用者の活動の拡がりを作っていきます。

3. 情報発信・広報活動

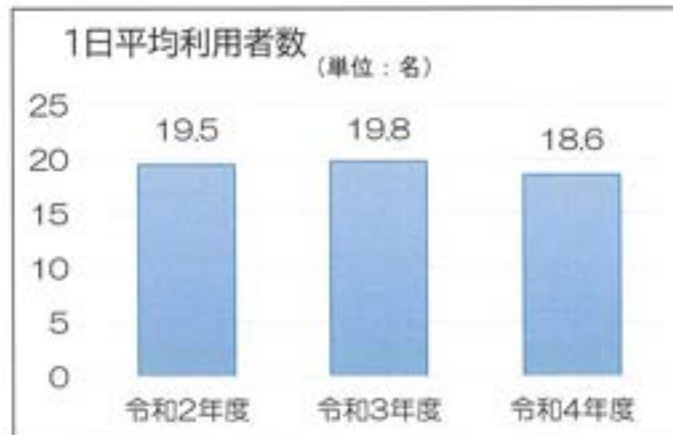
デイサービスの魅力を伝えるツールとして、パンフレットの更新、デイ通信「きらめき」を毎月発行し、利用者・家族、ケアマネジャーなどに発信しました。(発行部数:140部(毎月1回発行)、社協ホームページに掲載)

また、SNSを活用した取り組みとして、季節行事など日頃の活動をフェイスブックで情報発信を行いました。

令和2年度～令和4年度 実績比較

	開所日数(日)	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	新規登録者数(名)
令和2年度	308	6,011	19.5	23
令和3年度	309	6,131	19.8	13
令和4年度	299	5,584	18.6	13

◀ 新規利用者は伸びない状況でした。既存の利用者の利用日数の増が見られましたが、施設入所や長期入院、死亡等で終了した方がおられました。



令和2年度～令和4年度 利用登録者要介護度別比較表(単位:名)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
要支援1	8	6	5
要支援2	3	3	2
要介護1	32	27	23
要介護2	9	8	7
要介護3	9	10	8
要介護4	3	3	4
要介護5	7	3	3
合計	71	60	52

◀ 要支援1～要介護1の軽度利用者が57.7%と半数以上を占める状況です。居場所と役割、仲間づくりができる場として心身機能の維持、向上が期待されています。

中度～重度の利用者はレスパイト入院やショートステイを利用しながらの利用も多く、欠席率が高くなるのが課題です。振替利用や利用日の追加など柔軟なサービス利用の提供を送迎が可能な範囲で行いました。

地域で暮らす中で定期的に通う場があり、馴染みの人との関わりが持てることは、要介護の状態となっても求められており、その一助となるよう職員の創意工夫で安心・安全、満足できるサービスを継続して提供していきます。

身体障害者デイサービス事業(生活介護事業)

障害のある方が、主体的に社会参加し生きがいを高め自立した生活を過ごせるよう、利用者の「個別性」を重視し一人ひとりの「尊厳」を大切にするデイサービス事業を実施しました。高齢者デイサービスと同様に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、利用者、家族の安心、安全を優先した事業実施に努めました。しかしながら、職員の感染確認を受け、8月22日～26日の5日間、11月24日、25日の2日間休業しました。なお、再開にあたっては、デイルーム、浴室等の環境を整備し、併せて消毒方法等についても見直す等、感染対策を強化しました。また、職員の資質向上に向け、虐待対応研修や緊急時対応・感染管理研修を実施しました。

1. 利用状況

新型コロナウイルス感染拡大防止への対応については適時お知らせを配布し、利用者、家族の理解・協力を得ながらサービス提供を行いました。また、市内特別支援学校生徒の卒業後の進路として、事業所交流、現場実習の受け入れを行い、学校、相談支援専門員、市障害福祉課などと連携しながら生徒や家族が安心して進路決定ができるよう支援を行いました。

登録者29名のうち、3月末時点で施設入所支援利用の3名が利用自粛を継続しています。(施設サービスご利用者で複数施設の利用が禁止されているため)

2. 活動状況

コロナ禍において、ボランティアの受け入れや外出活動、調理活動、カラオケなどは、感染防止の観点から中止しているため、一人ひとりの思いに寄り添う活動を、小グループや個人活動を中心に提供しました。

アロマオイル、ピアノ練習、ゴミ拾いの清掃活動など様々な活動が生まれ、利用者自身が目標を持って心身機能の維持・向上に取り組みました。

次年度より、音楽療法を取り入れ、より心身機能の維持・向上に向けて取り組んでいきます。

3. 心地よく、安心できる環境づくり

祝日に他事業所が休止することで、日中活動の場がない利用者を対象に、祝日受入れのルールづくりを行い、家族のレスパイトケアの支援につなげました。

医療的ケアを必要とする特別支援学校卒業生の受入れに向け、人員配置や活動プログラムの見直しを行っていき、より良い支援を提供できるよう努めました。

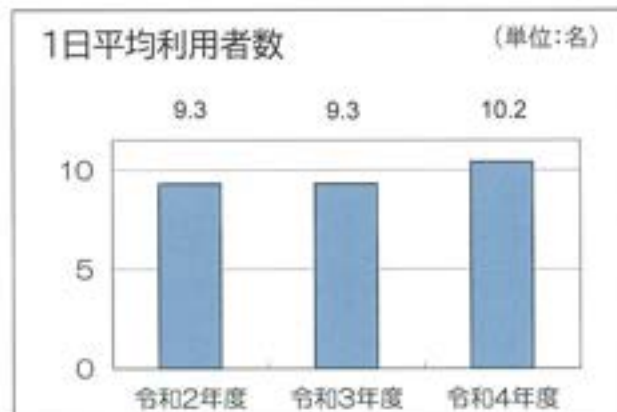
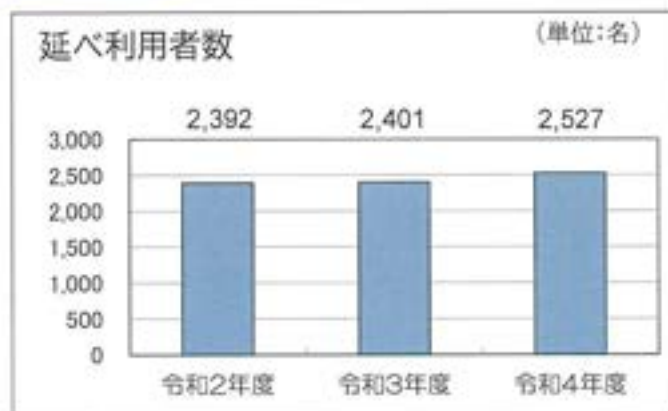
4. 職員の資質向上

利用者、家族の安心・安全のサービス提供につながるよう、毎月のカンファレンスでは、利用者支援の方向性を検討するとともに、職員から課題として聞かれる介護の知識・技術について学ぶ機会を設け、新任職員の育成とともに個々のスキルアップを行いました。

カンファレンス：毎月開催(継続ケース：66件)

令和2年度～令和4年度 実績比較

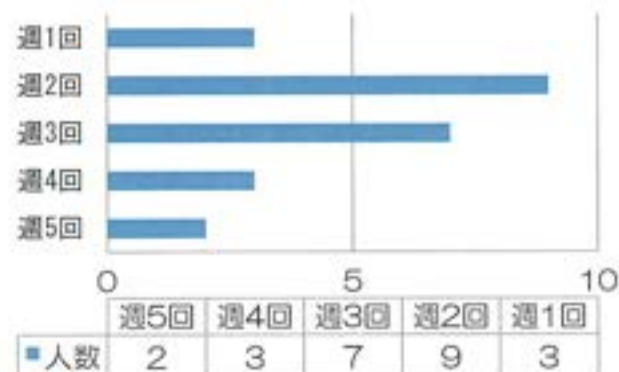
	開所日数(日)	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	新規登録者数(名)
令和2年度	256	2,392	9.3	4
令和3年度	257	2,401	9.3	4
令和4年度	246	2,572	10.2	3



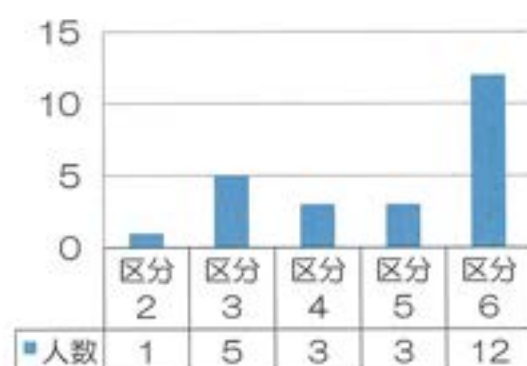
◀特別支援学校卒業生受け入れにより、利用者数は昨年度より増加しました。

登録利用者について、祝日の利用を希望される方には臨時で利用できるようルールづくりを行い、利用率の向上に努めました。

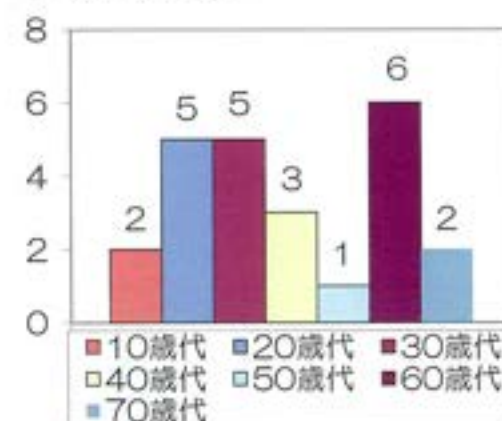
利用日数



利用者障害程度区分状況



年代別利用者数



高齢者ホームヘルプサービス事業(訪問介護・介護予防訪問介護相当事業)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に留意しながら、在宅生活の継続のため、利用者や家族に検温やマスク着用、換気などの協力を得て、サービスを提供しました。ヘルパーの体調管理や感染予防対策にも力を入れました。

感染拡大時には、事務所職員が密にならないように、勤務環境の見直しを行いました。

訪問系サービス向け記録システム「ケアパレット」を導入して2年が経過し、ICT化が定着してきました。アプリ内で申し送りや訪問指示等の情報共有を担当者間で迅速に行うことで、サービスの質を高め、細やかな配慮を行えるようになりました。

1. 利用者の自立支援

短時間訪問の中で要望に寄り添い、コミュニケーションをとりながら、残存機能を意識し、できることを促しながらサービス提供することを心がけました。

2. 安心、安全なサービス提供

定期的なモニタリングや担当ヘルパーとの情報共有を積極的に行うことを心がけ、利用者に安心してもらえるようなケアを工夫しました。

3. 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、専門職としての接遇、職業倫理、法令順守を再確認し、知識と技術の向上を図るため、毎月の定例会や研修を開催しました。感染拡大に留意し、担当ヘルパーとの情報共有や共通理解のため、「ケアパレット」の活用を意識しました。

活動実績比較（令和2年度～令和4年度）

介護活動実績（単位：時間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	746.0	821.0	828.0	859.0	925.5	916.0	904.0	850.0	756.0	718.5	744.5	836.5	9,905.0
令和3年度	786.0	748.5	762.0	771.0	776.5	747.5	730.0	742.0	807.0	738.0	777.0	810.0	9,195.5
令和4年度	761.0	770.0	739.0	761.5	748.0	777.0	751.0	730.0	788.5	701.0	720.0	825.5	9,072.5

介護予防訪問介護相当活動実績 (単位：時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	202.0	195.0	212.0	214.0	214.5	206.0	226.5	215.0	231.0	208.0	218.5	246.0	2,588.5
令和3年度	243.0	233.0	245.0	266.0	256.0	258.0	243.5	238.0	240.5	208.0	205.0	246.0	2,882.0
令和4年度	216.5	226.0	213.0	198.0	206.0	201.0	196.5	216.0	207.0	205.5	188.0	203.5	2,477.0

介護度別利用者状況 (単位：名)

	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
令和2年度	308	270	404	177	173	46	20	1,398
令和3年度	369	296	361	226	139	52	25	1,468
令和4年度	337	256	375	265	125	65	18	1,441

(法人内における活動)

【出張ふくし教室】

「車いす」の介助方法やアイマスク体験を通して、視覚障害者への声のかけ方や援助方法を学び、地域での支え合いの実践につなげるお手伝いを行いました。

今年度は、「さんだ生涯福祉カレッジ」「車いすレクダンス三田」

「三輪小学校PTA」「三輪地区民生委員児童委員協議会」から依頼がありました。



障害者ホームヘルプサービス事業(居宅介護、同行援護、行動援護、移動支援事業)

障害のある方が安心して暮らせるように、居宅介護(身体介護、家事援助、通院介助)、同行援護、行動援護、移動介護(ガイドヘルプ)の支援を行いました。高齢者ホームヘルプ同様に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への留意や「ケアバレット」の活用も行いました。

個々のニーズや状態に対応した支援

- ◆ 利用者や家族のニーズに対応したサービスの提供を常に心がけ、複合的な課題を抱える親子の支援なども行いました。感染が拡大している時には、やむを得ず同行援護や移動支援のサービス提供の範囲を制限しました。
- ◆ 心に病を抱えるケースが多く、意欲関心を引き出すための声かけやその日の体調に合わせた声かけを大切にしながら支援しました。

障害福祉サービス利用実績 (移動支援含む) (単位:時間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	1,078.5	1,099.5	1,173.5	1,310.5	1,313.0	1,256.5	1,311.5	1,266.0	1,205.0	1,086.5	1,005.0	1,161.5	14,267.0
令和3年度	1,159.5	1,071.0	1,078.0	1,181.5	1,076.0	1,060.0	1,173.5	1,142.5	1,114.5	1,135.0	964.0	1,068.5	13,224.0
令和4年度	1,104.5	1,173.5	1,113.0	1,154.5	1,058.0	1,141.0	1,106.0	1,110.5	1,144.5	1,027.0	984.0	1,039.0	13,155.5

【内部研修】ホームヘルプサービス事業(高齢者・障害者合同)にて実施



ヘルパーが集合し、毎月開催する定例会では、少人数のグループに分かれて「接遇・職業倫理・個人情報保護」、「自立支援について考える」、介護現場における「虐待防止について」「緊急時の対応」等の研修を実施しました。登録ヘルパー個々のスキルアップのため、個別研修を開催し、「認知症」「介護職員のためのセルフケア」について理解を深めました。

なお、市内で感染拡大していた時期は、各自で学習ができるような取り組みを行いました。

居宅介護支援事業

所属するケアマネジャーは4名、ケアマネジャー一人当たりの担当件数は30件前後となっています。なお、ケアマネジャーの退職、新たなケアマネジャーの入職に伴い、一時的に件数が減少しました。

前年度に引き続き、事業所加算取得事業所との連携会、三田市在宅医療・介護連携支援センターが行っている連携課題ワーキング会議等への参加を通じ、三田市全体の資質向上に寄与できるよう、「社協」が運営する事業所として積極的な情報発信、運営への参加に努めています。また、今年度は、社協内のケアマネジャー間の連携をさらに強め、合同研修や情報共有を通じて「社協」のケアマネジャーとして質の向上を一層図っていくための取り組みを実施しました。

1. 中央居宅介護支援事業所の運営状況

職員状況

・管理者(主任ケアマネ兼務) 1名 介護支援専門員 3名 加算状況 ・事業所加算Ⅱ(1件あたり407単位)

利用者の状況(給付管理件数)※申請中含まず

(単位:件)

令和4年3月末			新規			終了			令和5年3月末		
男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
37	82	119	28	43	71	24	53	77	41	72	113

月別給付数 ※申請中含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
合計	119	121	122	119	119	116	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	112	111	105	109	108	116	1377

介護度別状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	合計
合計	46	14	578	365	152	103	96	23	1377

2. 社協内ケアマネ連携会の開催

社協内には中央居宅介護支援事業所 4 名(内 1 名主任ケアマネジャー兼務)、三田市地域包括支援センター3 名、ウッディ地域包括支援センター3名(計10名)のケアマネジャーが在籍しており、連携強化のため 2 か月に 1 回の連携会を行いました。

日々の業務の中で、ケアマネジャーが抱える課題を共有し、地域課題として解決する取り組みの検討を行う仕組みづくりや社協のケアマネジャーとしての資質向上を目的として、4 名の主任ケアマネジャーが中心となって企画、運営を行っています。

実施日及び内容

第 1 回目 R4.4.13	「開催の目的」 「今後の流れについての説明」	第 4 回目 R4.10.14	ワールドカフェ方式 「社協のケアマネと他事業所との違いとは」
第 2 回目 R4.6.17	「要支援⇔要介護の引継ぎの留意点」「聴覚障害の基礎知識」 講師：三田市身体障害者福祉協議会 難聴部会	第5回目 R4.12.16	「権利擁護の理解」 講師：三田市権利擁護・成年後見支援センター職員
第 3 回目 R4.8.17	「地域支援を知り、地域との連携を考える」 地域福祉支援員 2 名参加	第6回目 R5.2.15	「避難行動要支援者支援制度の理解」

3. 市内の事業所加算取得事業所とのネットワーク ※事業所加算取得要件

事業所加算取得事業所による合同研修会は、今年で5年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症により参集が難しく、昨年度は、オンラインでの研修会を開催しました。今年度は、参集による研修会の再開に向け話し合い、感染対策をした上で総合保健福祉センターにて、管理者が参集し研修会を実施しました。研修会実施により、他機関との連携を確認できるよい機会となりました。

今後も、よりよいケアマネジメントを実施できるように、情報共有や介護保険制度の運用の確認など連携を強めています。

○加算取得事業所(事業所数:10)との打ち合わせ 5月13日(金) 7月11日(月) 10月11日(火)

○研修会 令和5年3月2日(木) ①三田市訪問看護連携会について ②介護タクシーの利用活用について ③制度解釈の意見交換

兵庫県共同募金会 三田市共同募金委員会



令和4年度事業計画

急激な少子高齢化が進行し、また新型コロナウイルス感染症により日常生活、経済環境、経済活動等に甚大な影響を与えている状況の中、当会の中期計画である第2次地域福祉推進計画に基づき、“だれもが住みなれた地域で安心して、生きがいを持って生活できるまち”の実現に不可欠な「つながり」「見守り」「支え合い」の活性化に重点を置いた共同募金配分金事業を推進するための募金運動を実施します。

令和4年度 募金目標額 8,000,000 円

令和4年度募金実績 7,376,999 円 達成率 92.2%

令和5年度地区福祉事業配分額 6,120,189 円

◆実績額 7,376,999 円の内訳

募金種目	令和4年度	前年度
個別募金	5,175,197 円	5,353,945 円
法人募金	671,823 円	733,664 円
学校募金	370,560 円	397,255 円
個人・大口募金	179,845 円	184,270 円
職域募金	432,073 円	421,606 円
募金箱・街頭募金	264,739 円	203,093 円
寄付付き自動販売機等	140,573 円	127,775 円
募金百貨店	142,189 円	110,568 円

◆募金百貨店プロジェクト協力店(敬称略)

かもめベーカリー 株式会社深谷工務店 シャトレゼ三田広野店
美容室プロフェッショナル 松栄堂 株式会社大東 三田和食花咲
株式会社西陣前田 兵庫ブルーサンダーズ Print コーディネーター
松尾亭 兵庫レイバース(令和5年1月28日～) 喫茶室ポロ

(1) 成果と課題

- 募金百貨店プロジェクト新規登録: 市内 13 か所目として、兵庫レイバースの新たな登録がありました。
- コロナ禍での募金活動: 各地域のつどい場や協議の場において、参加された皆さんにより、募金箱の設置や寄付の呼びかけが行われました。

(2) 次年度に向けて

- 募金活動の拡充: 募金百貨店プロジェクトや募金付き自動販売機、また街頭募金の再開に向けて、活動手段を検討します。
- 広報・啓発活動の推進: 募金活動への意欲につながる、実施事業の広報、啓発に取り組みます。

◆令和4年度地区福祉事業配分 実績額

主に地域のつどい場、見守り訪問活動、活動団体への支援、啓発活動など、より身近な地域の福祉活動の推進に向けた事業・活動へ配分しました。

高齢者福祉活動事業(団体活動支援)	180,000 円
障害児者福祉活動事業(団体活動支援)	160,000 円
福祉育成援助活動事業(孤立を防ぐ見守り・つながり推進事業、備品貸出事業等)	5,323,012 円
ボランティア活動育成事業(啓発活動)	84,530 円
歳末助け合い事業(見守り訪問活動等)	1,132,680 円
合計	6,880,222 円

◆寄付つき自動販売機(設置個所等)

総合整備工場向山センター 杉本マンション けやき台コミュニティハウス
今垣建材有限公司 桐灰小林製菓株式会社 株式会社エスエスシー
峠茶屋 狭間が丘コミュニティセンター運営委員会 三輪会館運営委員会